



平成28年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年12月15日

上場会社名 オース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9637 URL <http://www.osgroup.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山内 芳樹
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 森口 武士 (TEL) 06-6361-3554
 四半期報告書提出予定日 平成27年12月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年1月期第3四半期の連結業績 (平成27年2月1日～平成27年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年1月期第3四半期	7,141	23.2	784	101.1	662	144.9	9	△93.9
27年1月期第3四半期	5,795	9.2	389	4.6	270	9.0	159	23.7

(注) 包括利益 28年1月期第3四半期 264百万円(51.0%) 27年1月期第3四半期 175百万円(9.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年1月期第3四半期	0.62	—
27年1月期第3四半期	10.08	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年1月期第3四半期	31,684	8,857	28.0
27年1月期	30,960	8,675	28.0

(参考) 自己資本 28年1月期第3四半期 8,857百万円 27年1月期 8,675百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年1月期	—	2.50	—	2.50	5.00
28年1月期	—	2.50	—	—	—
28年1月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年1月期の連結業績予想 (平成27年2月1日～平成28年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,820	3.2	900	17.2	745	21.4	△135	—	△8.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	28年1月期3Q	16,000,000株	27年1月期	16,000,000株
② 期末自己株式数	28年1月期3Q	161,594株	27年1月期	156,315株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	28年1月期3Q	15,841,059株	27年1月期3Q	15,846,786株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成27年2月1日～平成27年10月31日）におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善傾向が継続し、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、中国をはじめとした海外景気の下振れ懸念など、景気の先行きは不透明なものとなっております。

このような経済環境のなか、当社グループは、安定した経営・財務基盤を実現するべく、本年4月に大阪市北区所在の「大阪日興ビル」を信託財産とする信託受益権の準共有持分を新たに取得いたしました。また、事業の効率化を図るため、本年9月には「梅田OSビル」の建物部分を来年1月に譲渡し、当期末でホテル事業を廃止することを決定するなど、経営資源の選択と集中に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間の成績は、分譲マンションの販売戸数の増加等により、売上高は7,141,731千円と前年同期に比べ1,345,918千円（23.2%）の増収となり、営業利益は784,076千円と前年同期に比べ394,174千円の増益、経常利益は662,730千円と前年同期に比べ392,090千円の増益となりましたが、特別損失として減損損失等を計上した結果、四半期純利益は9,769千円と前年同期に比べ149,958千円の減益となりました。

経営成績をセグメント別で見ると次のとおりであります。

(映画事業)

映画事業におきましては、邦画作品では「名探偵コナン 業火の向日葵（ごうかのひまわり）」「バケモノの子」「HERO」、洋画作品では「シンデレラ」「ジュラシック・ワールド」「ミッション：インポッシブル/ローグ・ネイション」などの話題作を上映いたしました。

映画以外のデジタルコンテンツといたしましては、宝塚歌劇団の星組東京公演千秋楽「柚希礼音ラストデイ」や、「三代目J Soul Brothers」“福山雅治”などの人気アーティストのコンサートをライブ中継するなど、多様なコンテンツの上映に取り組んでまいりました。また、他館との差別化を図るべく、「王妃の館」「あん」などにおいて出演者等による舞台挨拶を実施いたしました。

なお、「姫路OS1・2・3」につきましては、事業環境の変化に伴い、来年1月末をもって閉館することを決定いたしました。

売上高は2,461,418千円と前年同期に比べ147,218千円（6.4%）の増収となり、セグメント利益（営業利益）は179,824千円と前年同期に比べ52,274千円の増益となりました。

(不動産賃貸・販売事業)

不動産賃貸業界におけるオフィスビル市況は、景気の緩やかな回復基調を背景に、需要の高まりが顕著となっております。東京都心5区では、新規供給が減少した影響もあり、空室率が需給バランスの均衡の目安である5%を下回り、賃料水準は小幅ながらも上昇いたしました。大阪ビジネス地区では、空室率はわずかに改善しているものの、賃料水準につきましては依然横ばいで推移しております。

このような状況のなか、不動産賃貸事業におきましては、空調更新工事や共用部の美装化を行うなど、引き続き快適な環境の整備と顧客満足度の向上に努めてまいりました。その結果、当第3四半期連結累計期間末における保有ビルの稼働率は99.3%と高稼働を維持することができました。

なお、本年4月に取得した不動産信託受益権につきましては、賃貸収入に計上し、収益に寄与しております。

不動産販売事業におきましては、分譲マンション「プレージア守口松町 ザ・レジデンス」及び「プレージアブラン東園田」の売上を計上しております。

また、来年1月竣工予定の分譲マンション「プレージア京都 山科東野」の販売を本年2月より開始し、早期完売に向け鋭意取り組むとともに、本年6月には京都市左京区に新たな分譲マンション用地を取得し、事業化に向けて準備を進めております。

売上高は3,329,834千円と前年同期に比べ1,105,336千円（49.7%）の増収となり、セグメント利益（営業利益）は834,245千円と前年同期に比べ239,408千円の増益となりました。

(ホテル事業)

大阪のホテル業界は、海外景気の下振れ懸念があるものの、訪日旅行者の宿泊需要が拡大しており、国内旅行者につきましても堅調に推移しております。

「梅田OSホテル」におきましては、インターネット宿泊サイトにおいて、需要動向を見据えた販売管理を徹底するとともに、旅行代理店とのプラン契約料金を見直すことにより、収益力のさらなる強化に努めてまいりました。

売上高は609,240千円と前年同期に比べ65,318千円(12.0%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は218,977千円と前年同期に比べ77,343千円の増益となりました。

(飲食事業)

飲食業界は、食材価格の高騰や人材採用コストの増加、同業他社との競争激化等、依然厳しい経営環境が継続しております。

飲食事業におきましては、各店舗において新商品の提供やサービスの充実に取り組み、競争力の強化に努めるとともに、一部店舗の見直しを図ってまいりました。

売上高は287,638千円と前年同期に比べ13,717千円(4.6%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は8,175千円と前年同期に比べ4,214千円の減益となりました。

(その他事業)

アミューズメント業界は、ゲームの多様化による消費ニーズの変化を受け、厳しい市場環境にあります。しかしながら、「namco三宮店」におきましては、都市型店舗としての立地条件の良さから、訪日旅行者などの新たな顧客層が増加したことにより、堅調に推移いたしました。

売上高は453,598千円と前年同期に比べ41,762千円(10.1%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は77,646千円と前年同期に比べ12,836千円の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、前連結会計年度末と比較して総資産は724,419千円の増加となりました。これは主に現金及び預金303,876千円及び売掛金129,342千円の減少がありましたが、有形固定資産1,217,441千円の増加によるものであります。

負債につきましては542,381千円の増加となりました。これは主に短期借入金658,560千円の増加によるものであります。

純資産につきましては182,038千円の増加となりました。これは主に土地再評価差額金186,005千円の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年1月期の連結業績予想につきましては、平成27年9月14日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,515,107	1,211,230
売掛金	423,730	294,388
販売用不動産	2,037,386	1,923,882
商品	12,632	13,222
貯蔵品	5,065	5,289
前払費用	87,774	109,755
繰延税金資産	42,178	58,353
その他	15,032	22,893
貸倒引当金	△7,383	△7,383
流動資産合計	4,131,523	3,631,633
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,094,615	21,336,316
減価償却累計額	△12,034,791	△12,399,053
建物及び構築物(純額)	10,059,824	8,937,262
機械装置及び運搬具	308,706	298,205
減価償却累計額	△157,245	△176,331
機械装置及び運搬具(純額)	151,461	121,874
工具、器具及び備品	910,168	890,811
減価償却累計額	△665,923	△642,125
工具、器具及び備品(純額)	244,244	248,685
土地	14,387,172	14,387,172
信託建物	-	567,392
減価償却累計額	-	△20,851
信託建物(純額)	-	546,540
信託土地	-	1,812,608
建設仮勘定	-	6,000
有形固定資産合計	24,842,702	26,060,143
無形固定資産		
ソフトウェア	147,391	148,593
その他	9,369	1,531
無形固定資産合計	156,760	150,125
投資その他の資産		
投資有価証券	481,928	577,176
長期前払費用	238,154	173,639
差入保証金	613,979	614,057
建設協力金	431,188	437,050
繰延税金資産	30,304	12,390
その他	17,311	17,344
投資その他の資産合計	1,812,868	1,831,660
固定資産合計	26,812,331	28,041,928
繰延資産		
社債発行費	16,661	11,374
繰延資産合計	16,661	11,374
資産合計	30,960,517	31,684,936

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	192,915	199,874
短期借入金	2,246,836	2,905,396
1年内償還予定の社債	500,000	1,200,000
未払金	70,239	86,091
未払費用	342,879	291,082
未払法人税等	219,885	158,759
未払消費税等	156,304	68,116
賞与引当金	36,559	80,268
その他	278,292	525,590
流動負債合計	4,043,912	5,515,179
固定負債		
社債	1,200,000	500,000
長期借入金	11,138,517	11,600,290
長期預り保証金	2,096,335	2,045,188
繰延税金負債	1,516,993	1,069,280
再評価に係る繰延税金負債	1,947,585	1,761,580
退職給付に係る負債	341,380	335,587
固定負債合計	18,240,811	17,311,925
負債合計	22,284,724	22,827,105
純資産の部		
株主資本		
資本金	800,000	800,000
資本剰余金	66,506	66,506
利益剰余金	5,297,740	5,228,304
自己株式	△96,708	△100,388
株主資本合計	6,067,538	5,994,422
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	117,576	166,428
土地再評価差額金	2,518,226	2,704,231
退職給付に係る調整累計額	△27,547	△7,250
その他の包括利益累計額合計	2,608,254	2,863,409
純資産合計	8,675,793	8,857,831
負債純資産合計	30,960,517	31,684,936

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年10月31日)
売上高	5,795,813	7,141,731
売上原価	4,769,060	5,752,296
売上総利益	1,026,752	1,389,434
一般管理費	636,849	605,357
営業利益	389,902	784,076
営業外収益		
受取利息	6,988	7,144
受取配当金	3,751	3,785
協賛金収入	3,047	4,000
その他	8,371	3,478
営業外収益合計	22,159	18,408
営業外費用		
支払利息	124,465	127,239
その他	16,956	12,516
営業外費用合計	141,422	139,755
経常利益	270,639	662,730
特別損失		
減損損失	-	814,975
事業整理損	-	29,000
固定資産除却損	10,872	3,046
特別損失合計	10,872	847,021
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	259,767	△184,291
法人税、住民税及び事業税	150,457	277,745
法人税等調整額	△50,417	△471,806
法人税等合計	100,040	△194,060
少数株主損益調整前四半期純利益	159,727	9,769
四半期純利益	159,727	9,769

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	159,727	9,769
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,747	48,852
土地再評価差額金	-	186,005
退職給付に係る調整額	-	20,296
その他の包括利益合計	15,747	255,154
四半期包括利益	175,474	264,923
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	175,474	264,923
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年2月1日至平成26年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	映画事業	不動産賃貸・販売事業	ホテル事業	飲食事業	その他事業	計	調整額 (注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	2,314,200	2,224,498	543,922	301,355	411,836	5,795,813	—	5,795,813
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	107,560	—	—	—	107,560	△107,560	—
計	2,314,200	2,332,058	543,922	301,355	411,836	5,903,373	△107,560	5,795,813
セグメント利益	127,550	594,836	141,633	12,390	64,809	941,220	△551,318	389,902

(注) 1. セグメント利益の調整額△551,318千円には、セグメント間取引消去△1,163千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△550,154千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年2月1日至平成27年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	映画事業	不動産賃貸・販売事業	ホテル事業	飲食事業	その他事業	計	調整額 (注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	2,461,418	3,329,834	609,240	287,638	453,598	7,141,731	—	7,141,731
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	109,435	—	—	—	109,435	△109,435	—
計	2,461,418	3,439,270	609,240	287,638	453,598	7,251,166	△109,435	7,141,731
セグメント利益	179,824	834,245	218,977	8,175	77,646	1,318,869	△534,792	784,076

(注) 1. セグメント利益の調整額△534,792千円には、セグメント間取引消去△1,408千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△533,384千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社は、固定資産に係る減損損失を当第3四半期連結累計期間において「映画事業」セグメントに17,940千円、「不動産賃貸・販売事業」セグメントに573,490千円、「ホテル事業」セグメントに219,800千円、「全社」セグメントに3,742千円計上しております。